

道無限

仙台市科学館
だより

第5号

「道無限」はノーベル賞受賞の湯川秀樹先生から仙台市科学館がいただいた言葉です。

〒981-0903
仙台市青葉区台原森林公園四番一号
仙台市科学館
TEL: 022-276-2201 FAX: 022-276-2204
http://www.kagakukan.sendai-c.ed.jp/

市民の皆さんに科学の楽しさ・有用性をお伝えします

科学館長・赴任しました！



五月一日付で環境局の環境対策課から科学館に着任いたしました石井鉄雄です。

これまでは、大気汚染や水質汚濁などを中心に、仙台市の環境行政に深く関わってきました。その経験を生かしながら、市民の皆さんの科学への興味関心を高め、科学の有用性をお伝えできるような科学館作りをすすめてまいります。

環境対策課から科学館へ

と考えております。

三月十一日の東日本大震災により、仙台をはじめとして東日本全体が大きな被害を受けました。被災された皆様には心よりお見舞い申し上げます。

震災からの復興への道のりはいまだその緒についたばかりです。「道無限」は仙台市科学館が湯川秀樹博士から頂戴した言葉とありますが、今私たちが目指している復興への道程もまさに限りがない険しい道のように思われます。また一方で、復興に至る道筋もまた一本ではなく、復興を目指す人の数だけ、まさに無限の道があるのだと思います。

仙台市科学館も「道無限」の言葉を今一度噛みしめながら、理科教育への貢献を通して、復興への道のりを市民の皆様とともに歩んでまいります。

大方はさやとなりたる油菜の
ひそめる花に降る今日の雨
土屋文明



鮮やかな黄色の菜の花が、例年よりも少し遅い春の訪れを告げてくれています。

アブラナ Brassica rapa var. nippo-oleifera

牧野富太郎氏が編纂した図鑑によれば、中国から渡来した植物とされている。日本では相当に古い時代から栽培されている越年生草本である。全体が平滑で茎の高さ1m以上にもなり、上部で分枝する。葉は大きく、茎の基部の葉は有柄で先太り形で、少数の裂片をもった羽状に裂ける。ふちには鈍状の歯牙がある。葉柄は時にはわずかに紫色をおびることがある。4月頃、茎頂に総状花序で花をつける。黄色の十字状花が密集してつく。

なたね油は主に本種の種子からしぼられてきたが、ウンタイアブラナという近縁種の栽培が増え、本来のアブラナの方が少なくなっているという。

早期の開館を目指して！ 日々続けられる科学館の復旧作業！

予想以上に大きかった 余震の被害

既にホームページ等を通じて科学館の被災状況についてはお知らせしてきましたが、展示標本については、本震よりも余震の被害が大きかったようです。特に古代ゾウの骨格標本は壊滅的な被害を受けました。また物理領域の展示物は重量の大きなものが多かったのですが、地震のゆれにより転倒し、ガラス部分が相当に割れるという被害が出ました。

市民の皆さんと力を合わせて



エントランスホールに 巨大ジャンクルジム登場

続く余震のため、天井を支えていた多くの金具が落ちてしまいました。そのためエントランスホールの天井から巨大な吸排気ダクトが、いつ落ちてくるかわからない状態になっていきます。その修理のためにつくられたのが修理用の巨大な足場です。着々と修理が進んでいます。



写真はサイエンスインタプリタの皆さんが仙台市科学館の復旧活動を行っている様子を撮影したものです。上写真は収蔵庫の中の整理作業です。仙台市科学館以上に被災の程度の大きな博物館があり、その博物館が所蔵する貴重な標本資料等を一時預かりするために必要なスペースを作っているところです。一つ一つの標本が大変貴重なものであるため、気をつけ



ながら丁寧に扱わなければなりません。他の博物館の収蔵物を一時的に預かるとういう取り組みは、全国的なもので「文化財レスキュー事業」と呼称されているものです。仙台市科学館だけではなく、ほかの博物館をすくうことにつながる取り組みの一環です。下写真は地学第一標本室の後片付けをしていたいただいている様子です。大きな棚が転倒し、足の踏み場もない状態でしたが、サイエンスインタプリタの皆さんの献身的な復旧活動のおかげで見違えるような状態にまでもどすことができました。